

ストレリチアの鉢植え

Q. 近所で写真のような南国風の花を見ました。市内で育てられるでしょうか？

A. 南アフリカ原産のストレリチアです。花の形からゴクラクチョウカ（極楽鳥花）ともいわれます。熱帯育ちのような姿をしていますが、案外寒さに強く日当たりなどの条件が適すれば尼崎市内の露地でも育ちます。



《ポイント》

排水のよい土で鉢植えし、十分日光に当てることが大切です。

1. ストレリチア レギナエ (*Strelitzia reginae* Ait.) バショウ科。
南アフリカケープ地方の原産で、高さ 1m 前後に育つ多年草です。
カンナに似た固い葉を地際から出し、初夏に、円柱状の花茎に外側の弁は橙黄色、内側の花弁は紫青色の派手な花を着けます。
2. 栽培環境
 - ①光：一日に最低 3~4 時間日光に当たらないと花着きが悪くなります。
 - ②温度：冬越しの温度は 5℃ くらいです。冬の間はこの温度に当たって花をつくれます。ほかの時期は日本の戸外の温度で育ちます。
 - ③春から夏には十分に水をやります。秋から冬には用土が乾き切らないほどに水をやります。
 - ④肥料：元肥・・・10号(30cm)鉢に緩効性化成肥料 10g。
追肥・・・3月、7月、11月に 10g ずつ。春から秋にかけて 1,000 倍にうすめた液肥を 2 週間ごとに施してもよい。
3. 鉢植え
 - ①時期：6月中旬ころ。
 - ②用土：赤玉土：完熟堆肥（腐葉土）：日向土を 1:1:1 の割合で。
 - ③鉢：苗は 7号(21cm)鉢に植え、2年後に 10号(30cm)鉢に植えます。
 - ④植え付け後の管理：じゅうぶん灌水して活着を促します。株元にバークなどを敷いて乾燥を防ぎます。
4. 病虫害
 - ①カイガラムシ、アブラムシが着くことがありますので、殺虫剤で防ぎます。
 - ②病気はあまりありません。
5. 開花
タネまきから開花までは 6 年かかります。
ふつうに流通している 4 年生の苗を植えれば 2 年後に開花します。

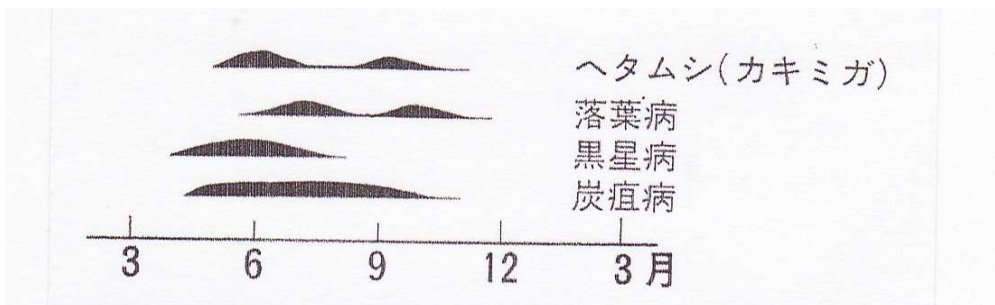
カキの実が落ちる

Q. カキの実がたくさんあったのですが、小さなうちにほとんど落ちてしまいました。どうしてですか？

A. カキの実が落ちる原因には、ヘタムシの害によるものと、なりすぎによる生理的なものがあります。

《ポイント》

5月下旬と7月下旬の2回、成虫が卵を産む頃に、殺虫剤（カルホス乳剤）を散布して防ぎます。



【カキの虫害と病気の発生時期】

①ヘタムシ

カキミガの幼虫で芽や果実のヘタ部などを食害します。蛾(成虫)が発生するのは5月下旬と7月中旬の2回。幼虫の害が目立つのは7月下旬から9月です。ヘタムシがヘタと実の間をかじると、果実が透き通るような朱赤色になって落ちます。蛾が卵を産む頃をねらってカルホス乳剤を散布します。ただし、殺虫剤としてディプテレックス剤を散布すると落葉、枯死などの激しい薬害がでますから注意してください。

②生理的な落果

カキの実の大きさは葉の働きでつくられた炭水化物を使って大きくなります。カキの実一つを完全に大きく太らせるには、少なくとも15枚の葉が必要です。同じ枝にたくさん着いた幼果を全部育てることはできませんので、自ら幼果を切り捨て、落としてしまうのです。これを生理的落果といいます。

適当に実を取って数を減らし（摘果）、育てる能力にふさわしい実の数を維持すれば落果はおこりません。